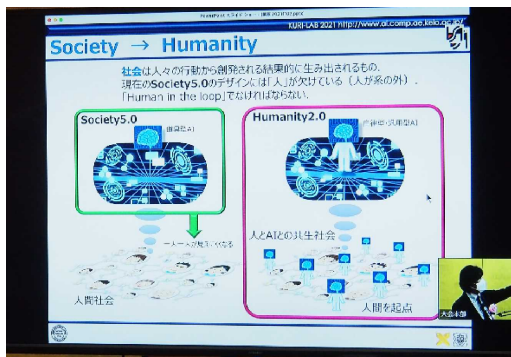


恒例の研修会では、視覚障害者を支援するAIヘルパーの開発を研究している慶應義塾大学理工学部教授で、同大

共生知能創発社会研究センターの栗原聡センター長により「進化するAIの目指すもの」をテーマに開催された。



◀ 式典では、点訳・音訳奉仕者94名（代表1名）に感謝状が贈呈され、永年勤続職員29名（代表1名）と援護功労者1名の表彰が行われた。ただ、コロナ禍であり、感染対策を徹底するため実際の参加者は代表2名と援護功労者1名の都合3名だけであった

第70回全国盲人福祉施設大会が令和4年（2022年）10月28日（金）午前10時から、東京都新宿区の東京視覚障害者生

活支援センターをオンライン配信会場に、コロナ禍ではあったが一部対面参加も認めてハイブリッドで開催された。



▲ 式典では長岡理事長の挨拶のあと、点訳・音訳等奉仕者91名に感謝状が贈呈され、永年勤続職員24名と援護功労者2名の表彰が行われた

▼ 対面で参加いただいた5名の代表には、式典終了後は、マスクをはずして理事長とともに記念撮影をしていただいた



第71回全国盲人福祉施設大会を開催



一気に秋らしさが増した令和 5 年（2023 年）11 月 9 日、東京・グランドヒル市ヶ谷にて、日盲社協創立 70 周年記念第 71 回全国盲人福祉施設大会を開催させていただきました。

何度も繰り返し述べられているように、対面形式での開催は北海道・帯広で開催した 2019 年以来で実に久しぶり。しかも、本部主管となると、60 周年記念大会まで遡り、開催に向けての不安は小さくありませんでした。

大会への参加申し込みも当初は低調で、一層不安がつのりしましたが、直前に、参加される方が 100 名を超えることが分かり、ほっと胸をなでおろした次第です。

当日、講演会の開催時刻には会場に空席がほとんどなく、従来と形は違えど、対面での大会を開催して良かったと、心から思いました。

講演いただいた弁護士で名古屋市視覚障害者協会の田中伸明会長、法政大学大学院の米倉誠一郎教授からは大きな刺激

をいただきました。



共通して語られたのは、私の勝手な解釈で言えば、「変化」と言うことです。

障害の考え方としての医療モデルから

社会モデルへ。そして新たに人権モデルへという変化は、当然のこととして、私たち支援する側の対応も時として異なってくることを意味しています。

また、視点の「変化」は発展への第一歩という考え方は、社会の側からの社会福祉への視線を理解していく上でのヒントになりうると思いました。

ご来賓の方々のご挨拶にも、「変化」を含むものがあり、日盲社協が現在置かれている状況を改めて見直す必要性を痛感させられました。また、今回初めてご後援をお願いし、ご来賓としてご挨拶をいただいた東京都眼科医会の福田敏雅会



▲ 福田敏雅会長

長からは、医療と福祉の結びつきを、今後さらに深めていくことへのエールをいただきました。

祝賀会は、差し詰め同窓会といった雰囲気でした。普段お会いする機会の少ない先輩諸氏との直接の会話は日盲社協の歴史を体感することのできる貴重な時間となりました。

最後に司会の大役をお引き受けいただいたフリーアナウンサーの遠田恵子さんにはいくら感謝してもしきれません。素晴らしい進行をしてくださり、大会の温かみを作り出してください

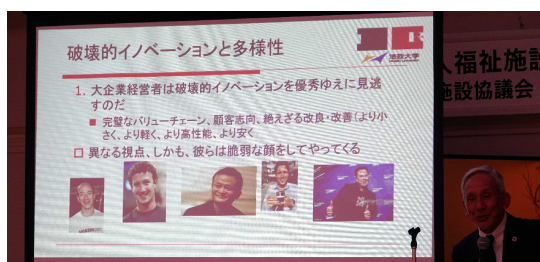


▲ 遠田恵子氏

ました。心より御礼申し上げます。

理事長 長岡雄一

バカモノの時代——講演Ⅱより



米倉教授は、破壊的イノベーションが現れると「高くて、性能が悪くて、機能に乏しいもの」が、「安くて、高品質な製品を破壊」する。大企業の経営者は賢く優秀ゆえにそのイノベーションを見逃す。

一方、世界的イノベーターであるアマゾンのジェフ・ベゾスやテスラのイーロン・マスクらは自由な発想と異なる視点を持っているのでバカ面であると写真を示して笑いをとる。だがこれからは多様性の時代なので、楽観的な「ワカモノ・ヨソモノ・バカモノ」がイノベーションを牽引すると预言する。

アフリカに「速く行きたいなら一人で行け、遠くまで行きたいならみんなで行け」という諺がある。そして少数者を含む多様性の時代には障害者の視点はユニバーサルであるとまとめた。